

多彩な企画で大盛況

吉成3丁目

5月5日(土)、鳥取市民体育館駐車場で第2回鳥取駅南まつりが行われました。これは、市報5月号で紹介した鳥取駅南振興会が企画・実施したイベント。



汗はむくらの陽気となったこの日、会場には多くの家族連れが訪れ、B級グルメ屋台や、ステージイベント、パトカー・白バイの展示など、バラエティに富んだ企画の一つひとつを楽しんでいました。グルメ屋台には6月開催のB-1グランプリに出展する団体も参加し、「ご当地自慢の料理をPR。来場者は「来月のイベントが楽しみ」と、各地で親しまれている味に舌鼓を打っていました。

ステージイベントでは元ガイナール鳥取のDF、喜田靖さんが来場。「どうしてたくさん点が入らないの」といった子どもたちの素朴な質問に答えたり、じゃんけん大会で交流を深めたりしながら、多くのファンにスタジアムでの観戦を呼びかけました。じゃんけん大会を制して豪華景品をゲットした子どもは、「試合を見に行きます」と喜んでいました。



まちかど

アルバム



見て、上手に飾れたよ

栄町

4月29日(日)、第35回鳥取市花のまつりの中で、フラワーアレンジメント教室が行われました。これは、鳥取生花商園芸組合が毎年行っている企画です。イベントに足を運んでいた多くの親子が足を止め生花を製作。カーネーションやかすみ草など、数種類の花を思い思いに配置し、いろいろな角度から見栄えを確かめながら、自分だけのアレンジメントを完成させました。製作を終えた子どもたちは、「きれいにできた。部屋に飾る」とご満悦の表情。色鮮やかに仕上がった花かごを大事に抱えながら歩いていきました。

鯉を放流「大きくなあれ」

気高町睦逢

4月26日(木)、逢坂小学校3、4年生の児童が気高町内の大堤池に鯉の稚魚約500匹を放流しました。これは、「つぐい」という竹で編んだかごを泥の中に突き立て、中に入った魚を取る地域の伝統漁法「うぐい突き」を次の世代へと伝えるために行われたものです。この漁法の保存会の会員から、大堤池の歴史や構造、うぐい突き由来などについて説明を受けた後、児童たちは「大きくなあれ」とバケツに入れた鯉をやさしく池に放流しました。鯉が順調に育てば、10月のうぐい突き漁の時期には30センチ以上に成長します。





5月8日(火)から11日(金)までの4日間、五しの里さじ地域協議会の田舎暮らし体験(民泊)に、オーストラリアから18人が訪れました。体験は、椎茸の植え付けに始まり、手すき和紙づくりや習字、山王溪谷の散策など多種多様。なかでも、3日目に行われたヤマメのつかみ取りでは、生きた魚の手づかみに初挑戦。捕まえる人も周りで見ている人も歓声をあげて楽しそうでした。「私は3匹捕まえた」、「一番大きな魚は私が捕まえたんだ」と、子どものように目を輝かせながら、自慢げに話してくれました。

佐治町中

初めての体験づくしです



山野草を食べよう会

鹿野町鷺峯

5月9日(水)、採取した山野草を調理する催しが小鷺河地区公民館で行われました。絶好の散策日和の中、参加した20人は、見なれた野草にも食べられるものやそうでないものがあること、また、地域によって呼び方が違うことなどを講師から教わりながら真剣に摘み取っていました。この日採取した山野草は、山うど、ワラビ、コゴミ、ユキノシタなど多数。たっぷり食材を確保した後、公民館で天ぷらや煮物、和え物などに調理。山菜料理は自分たちで採った分一層おいしく、自然の恵みを感じる事ができると大変好評でした。



4月29日(日)、とっとり出合いの森でたけのこ掘りが行われ、同会場のイベント「鳥取こどもまつり」に訪れていた家族連れ12組が参加しました。鍬を片手に持ち、収穫に期待を膨らませながら山の中へ。すると、その瞬間「あった」という子どもの歓声が。他のみなさんも負けじと目を凝らし、山肌に顔をのぞかせるタケノコを探しました。掘る作業は力と技術が必要でしたが、親子が協力して次々と掘り出していきました。1時間ほどで、みなさん両手がふさがるくらいの収穫があり「食べるのが楽しみ」と大満足の表情でした。

桂見

春の宝物を見つけたよ



新緑の三滝溪へ

河原町北村

4月29日(日)、三滝溪の三滝荘で山開きの神事が行われ、関係者らが玉串を捧げて山の安全を祈りました。また、5月3日(木)にはしゃくなげ祭りが行われ、およそ100人が訪れました。来訪者は、わらび汁やつきたてのお餅などに舌鼓。採れたての山菜を自分で選び、てんぷらでいただく三滝荘新メニューの山菜ランチも大好評でした。小雨が舞う天候でしたが、つり橋まで足を運ぶ人もあり、新緑の木々と、鮮やかな赤いつり橋とが織りなすコントラスト、そして、千丈滝の雄大な眺めに時間を忘れ見入っていました。